

## ボクシング東京五輪アジア・オセアニア予選の開催

2020年3月3～11日、アンマンのフセイン・ユース・シティ内のプリンス・ハムザ・ホールにて、ボクシング東京五輪アジア・オセアニア予選が開催されました。同予選は、もともと中国の武漢で開催予定となっていたが、新型コロナウイルスの影響により、1月後半になってから急遽アンマンでの開催が決定されたものです。開催まで1ヶ月強と大変短い準備期間でしたが、ヨルダン・オリンピック委員会の尽力により非常に円滑な運営がなされ、全試合が滞りなく行われました。

日本選手団からは、男子6選手と女子5選手が参加し、うち3選手が見事オリンピック出場権を獲得しました。女子51kg（フライ）級の並木月海選手（自衛隊体育学校）と女子57kg（フェザー）級の入江聖奈選手（日本体育大学）は決勝まで勝ち上がっての準優勝と、東京五輪でのメダル獲得にも期待がかかります。なお、表彰式では、柳秀直大使がメダル授与をさせていただきました。男子69kg（ウェルター）級の岡澤セオン選手（鹿児島県体育協会）は、準々決勝で敗退した後、順位決定戦を勝ち上がって5位となりました。日本には開催国枠として男子4名、女子2名の枠が与えられているので、今回出場権を獲得できなかった男子の選手たちも、5月にパリで行われる世界最終予選を通じ3人の出場権が得られることになるようです。

また、予選の開催国となったヨルダンからは、全8階級のうちで5人もの男子選手が東京行きの切符を手にしました。特にウェルター級のフセイン選手は優勝を飾っており、東京五輪でのメダル獲得も期待できます。



並木選手への銀メダル授与



入江選手への銀メダル授与



会場の様子